

Starting with AA 2024 年度活動計画 趣意書

梶山女学園大学看護学部「starting with AA」
共同代表 梶山女学園大学看護学部 教授・学部長 杉浦美佐子
梶山女学園大学看護学部 助教 瀧田咲枝

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、「Starting with AA」への格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

私ども「Starting with AA」は 15 歳～30 歳前後の思春期・若年成人のがん患者への全人的な支援活動を行なっております。

現在、日本人の 2 人に 1 人は「がん」を発症しており、どの年代であっても身近な病気になりました。しかし、15 歳～30 歳前後の思春期・若年成人期においては、小児がんと成人がんが混在して発症し、臓器も多岐にわたること、他の世代に比べて患者数が少なく治療する専門家が限られ、治療法が十分に確立していないなど、社会において患者への支援が行き届いていない実情があります。

思春期（15 歳～）から 30 歳代までの世代は、Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の頭文字をとり、AYA（アヤ）世代（以後 AYA 世代と略す）と呼ばれるようになって来ました。AYA 世代は、多くが親から自立し、生活や活動の中心が家庭や学校から社会へと移行する時期、人生にとって大きな転換期を迎える時期にあたります。さらに恋愛、結婚、出産など人生の重要なイベントが集中する時期でもあります。そのため、就学就労、妊孕性の問題、更には親世代ががん罹患することによりヤングケアラーとならざるを得ない子どもたちの問題などの多くのリスクに遭遇しがちです。がんと診断され、治療と共存しながら生活される AYA 世代には、社会の中で細やかな支援が必要です。

また、昨年度の「AICHI AYA week 2023」の私どもの開催経験からは、患者・家族が遭遇する様々な困難に対する支援に加え、友人や職場の仲間、雇用先である企業の方々が、どのような支援をしていくことが必要なのか等、情報や具体的な方策が少ない中模索されている現状も見えてきました。さらに、同じような志を持つ個や団体、企業があることを知り、心強く感じているところです。

そこで 2024 年度は、多くの方に「AYA 世代がん」を知っていただくこと、支援の輪を広げる活動を拡大し、AYA 世代の患者やがんを克服した経験者、ご家族の方々が安心して暮らせる社会と地域の実現を目指していきたくと考えます。

上記の趣旨のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

1. 目的

未来を担う AYA (Adolescent and Young Adult (思春期・若年成人)) 世代の抱える様々な問題 (AYA 世代がん (就学就労、妊孕性など)、ヤングケアラー、働き続ける事、子育てなど) に対して、SDGs の概念を基に、賛同する関係者と共に社会問題解決に向け活動を実施し、誰にでも優しい地域 (愛知県) を目指し、人々の意識変容、さらには行動変容に繋げる事。
～AYA から始める、誰も置き去りにしない「あいち」の実現～

2. 実行委員会

令和 5 年度 6 月にメンバーを募る。

活動の計画・実行をする。

3. 活動内容

1) AYA 世代から発信「住みやすい社会とは？」コミュニティ形成企画 (9 月 19 日開催)

がんの罹患の有無に関係なく AYA 世代の困り事、こんな社会だったらいいな。をディスカッションする。それぞれ自由な発想で話し合いキーワードを完成させる。

前期 AYA 世代の部：15-25 歳、後期 AYA 世代の部：23-29 歳

対象：20 名ほど AYA 世代の経験者の方、当事者の方、一般の方

2) CAYA 夏祭り企画 (10 月 14 日)

ちょっと特別な時間をみんなと体験。をテーマに、体験の共有からピアサポート形成に繋げる。そこからサバイバーシップ強化へ。

対象：LTC のこどもと家族、AYA 世代がん患者家族

3) AYA 世代からがん予防企画 (11 月 8 日水曜日)

乳がん予防についてのレクチャーと早期発見のためのセルフ診断について
×千種区保健センター

4) AYA 世代がん啓発活動「AICHI AYA week 2024」(3 月 9.10 日)

タイトル：AICHI AYA week 2024

日時：2024 年 3 月 9 日 10 日 (土・日曜日) 10:00～17:00

AYA とは、がんに対する予防や周知展示、AYA ガチャガチャコーナー (AYA 周知)、AYA グッツ販売、AYA 募金コーナー、相談コーナー、トークイベント

5) マインドフルネスの会 (医療者の会 10 月 27 日、患者の会 12 月 17 日)

医療者、患者両者のストレス解消方法を自身で身に着け、自分自身と向き合うことができるからだづくりをしていく。